

什・川・7・日採集

久慈郡大子町黒崎雄二氏事跡調書

史談会提出書類原本(子)

黒崎章次氏有

本年九月廿四日嘉永以降国事殉死也

事蹟、家寶等取調至急差出様

申末三处甚之延之相承之依了殉死

事蹟、家寶等取調書東京史技

会へ直接送附以之問左様以承知

廿九日上カ、久延部大少所

嘉永拾月廿日

里崎大辅

水之市上市八幡町三三九 蔭山相牙

水蕩事蹟取調所

ハカ

事有差（六）私方、御回答相成度矣

明治三十九年十月廿一日

早之嶺首

茨城縣久慈郡大子町

東京市一橋文部省内

黒崎大輔

史談會

御中

本年三月中霞ヶ関史談会より東京市下石川区
雑司が谷町里崎雄二方へ嘉永以降国事殉死
者姓名年月日、場所等テリ申来りて趣ニ付雄二
方、相者へ取調ニ方申来り依テ取調雄二方へ回答
致シ其間定テシ史談会ニ方へ法記入済事ト存シ
居テ今般九月廿四日水戸市上市八幡町永清事
蹟取調所ヨリ九月卅日迄ニ殉死年月日及事蹟
等、事申来りて取調ニテ其延々相成其故
水戸方へ回答致サズ直接御會へ御送附申上テ
猶殉死事蹟及家寶等對ニ御不明ノ事

姓名	身分	殉死年月日	殉死場所
里崎 藤右五門	士族	元治元年甲子正月三日	常陸國久喜郡大子村
里崎 藤右五門	士族	明治六年癸酉六月七日	東京靈臺岸嶋

高水以作國事之殉死也其功甚大其子
之事蹟亦神也其子之成其功也
但之家寶也其子之文其功也其子之
功其子之文其功也其子之

以老部古子町

墨山寺古子町

水戸市古子町二丁目古子一丁目
(墨山寺)

水戸市古子町二丁目古子一丁目

黒崎藤右五門事蹟

黒崎藤右五門諱久比友山ト号ス又藤右五門貞孝洗心ト号ス
文學ヲ以テ著ル久比七歳ノ時父貞孝没スナニ歳ニシテ水戸
ニ出テ藤田會沢ニ先生ノ門ニシテ學ビ歸テ家ヲ嗣グ幾許モナリ
テ大子村里トナル矣田村ヲ兼帶ス矢田村ノ水戸藩ノ幕閣
倉庫アリテ稗數千俵ヲ貯ク久比は倉庫ヲ監視ス教
年ナリキ安政二年士分格ヲ命ヤル矣以テ水戸烈公命
シテ大子ニ郷校ヲ設ク文武館ト稱ス藩久比ヲ養育テ校
監トナス文久二年戊子月烈公ノ四男興四郎存君ハ其代
テ封内ヲ巡視ス文武殿ニ泊ス久比ニ陪食シ命ヲ且ク

親う敬而好之、西大子ヲ書シテ賜フ、今尚家室トシテ之ヲ
藏ル、文久二年幕府ノ淺草ニ至リ水滸内証ヲ生じ日ニ
安かり久比意見ヲ滸ニ致ス容レラズ為ナリ校監ヲ辭ス後
久比里羽滸ニ依リ江戸ニシテ成ラズ再口老田原侍匠ト
井原奇ニ依リ老田原滸士ト稱シ東上シテ少石川邸ニ到リ大
ニ為ス竹ハアリシモ果カク久比國史ヲ研精シ曾テ和歌ヲ善ク久安
政文久ノ同海防ノ議興ルノ時ニ當リ久比屢々攘夷策教万
言ヲ建テ著ス竹口叔舎集、百詞格、詞章便覽、割氷塩
考、攘夷策等有り後々國難ノ為ノ紛乱シテ全部家
傳ヲ不黨禍日ニ甚シク國勢漸ク急ラ告ケ^元危^元險^元ニナリ甲子

十月ニテ吾田耕雲斎等本村ニ入ラシメル時久比郷人ヲ隨
ヘ之レテ所ガ克リカシテは百戰死ス先人ノ墓側ニ葬ル享年四
三長子豊七郎久展家ヲ嗣キ藤右五門ト改メ藩藤右五門
トシテ代々郎士ト命ジ禄ナユ石ヲ賜ル

黒崎藤右衛門事蹟

黒崎藤右衛門諱久辰少字大吉又郎上納言藤右衛門久比
ノ長子ナリ幼ニシテ家学ヲ講究ス長ズルニ及ニテ水滂士醍醐
逸ニ及ビ中山興惣左衛門氏ノ門ニ入り専ラ文武ヲ講究ス元
治元年甲子ナリニ平吉父久比戦死スルヲ以テ家ヲ嗣ガ又カ戦死
功ニ因リ藤右衛門ハ代々郷士ヲ命セリ侍祿ナキ石ヲ賜ラ又大
子村屋正ト云 幾許モナリ水滂堂福徳々起ル慶應四年
戊辰二月藤右衛門奔テ金澤ニ到リ市川ニ在テ門ノ勢カニ投マ
始終箕助大夫ニ随フ金澤ナリ一月卯夫失守ト若ク水戸城
ヲ陥シ貞芳侯ヲ擁シテ官軍ニ降ラントシ大ニ弘道館ニ戦ラ

水滂幸陵取相所
ハヤ

同月、藤右五門ハ、借リ左助ニ中リ、負傷ス、戦ハ、敗レ、下総國

銚子港ニ落ッ、舟ヲ奪ハ、北海道ニ赴カントシ、及州高崎藩果テ、是ヲ先キ

同志若思想シ、異ニシ、同國ハ、日、市坊ニ達スル、時、水滂、土、山口、徳之進

及、心、本、佐、太、丈、尾、子、勢、カ、ツ、始、メ、シ、同、地、船、山、ニ、據、リ、大、ニ、戦、フ、為、メ、

先、輩、者、士、概、テ、ハ、處、ニ、戦、死、ス、亦、大、ニ、郎、健、在、ナル、以、テ、兄、藤、右、五

門、ノ、負、傷、シ、為、護、ス、ル、得、大、ニ、郎、今、雄、ニ、ト、稱、ス、即、ケ、藤、右、五、門、弟、ニ

伴、ハ、レ、各、地、ニ、伏、在、ス、後、々、東、京、靈、芝、岸、嶋、市、川、甚、右、五、門、ノ、家、ニ、潜

伏、ス、明、治、大、年、六、月、七、日、ハ、家、ニ、於、テ、病、死、ス、行、年、ニ、十、九、歳、親、戚、等

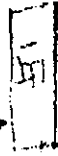
ニ、京、邊、歸、ッ、郷、里、ニ、送、ル、分、家、異、弟、藤、右、郎、親、戚、蓋、テ、孫、等

大、ニ、早、茨、城、縣、權、老、事、關、新、卒、白、ク、死、之、由、ヲ、為、シ、ル、コ、ト、言、フ、大、分

生誕七尋少は山内教道氏より埋葬甚しかりしが其ノ坊人より藤
坂工門嗣子無し實第大輔襲主たり先堂ノ側ニ埋葬するに
たり爾及何尋ノ御汝狀ナかりし故大輔ハ明治九年四月申次
城臨撫令々中山信爲白く士族復讐籍ノ少額ヤレト至本年九月
十日額ノ趣キ聞角ケ雜シノ坊人々より大輔遺骸ナかり暫ク
打撈テアリシモ亦明治二十一年二月二十日茨城縣知事ノ安田定
則白く士族復讐ノ少額シナレタリニ屬キ取調ヤ有リタリ後々
至本年十一月二日ニテ八日聞角ケ士族籍簿ニ編入スルノ坊人々
依テ家名再興ス

家寶

一家寶トシテ藏幅ニ係ル水戸烈公ノ男譽四郎重君ノ筆
蹟里崎藤右門久比古子文武毅校監タリシト申賜道者



敏而好學

亥壬戌仲為

環山印印

右當戸主里崎大輔ノ家ニ藏ニ置キ候也

一
一